

# 建設通信新聞

## 前田建設で新丸山 ダム転流工に着手

岐阜県御嵩町で進む新丸山ダム整備工事のうち本体工事の一部となる転流工が始まった。23日、約200人が着工式に臨み、鍬（くわ）入れ式「写真」を行うなど安全を祈願した。施工は前田建設が担当する。



冒頭のあいさつで大野泰正国土交通大臣政務官は「新ダムの建設は地域にとって悲願の事業。一刻も早く完成させてほしい」と期待を込めた。また、足立敏之参院議員は「この事業はいよいよ新たなステップに入った。下流域河川のはんらんによる浸水被害を防ぎ安心して生活できる環境に導いてほしい」と要請した。続いて、鍬入れを行った後、くす玉を開披した。

同ダムの事業は丸山ダムの下流約50㍊の位置に約20㍊高上げし洪水調節の機能を高める再開発。転流工は本体工の一部で洪水を迂回させる機能を整備する。新ダムが完成すれば木曾川の今渡ダム下流地点で約3・8㍊の水位低下が見込め、河川はんらんによる浸水被害を防ぐことができる。